

# 団塊の世代

# 元気もりもり

## 気象情報を届け半世紀

青森市の工藤淳さん(75)はラジオ番組などでおなじみの現役の気象予報士。気象に携わり続けて半世紀を超える大ベテランだ。49歳で「アップルウェザー」を創業し、メディアへの出演回数は数知れず。地域に根差した高精度な気象情報の提供が信条で、コンピュターが出した予報をうのみにはせず吟味した上でより正しいと思った予報を発信する。「青森の人に伝える情報としてはどこにも負けない」とプライドをのぞかせる。阪神大震災を契機に本県の防災意識を底上げしたいとの思いが芽生え、災害への備えや対応に関する知識と技能を有する「防災士」の資格を2005年に取得。翌06年に県防災士会を設立し、22年には「防災士功労賞」に本県で初めて選ばれた。



現在も週2回、ラジオの生放送で天気予報解説を行う工藤さん

ラジオでおなじみ

75歳

工藤淳さん(青森)

高齢化が進む中、工藤さんが気をもんでいるのが「災害弱者」への対策だ。「家族や近所を含めて、せめて自分たちの身は自分たちで守るという意識が広がれば。備えはいくらやってもこれでいいということはない」。創業時から約200回にわたり行った講演や日々のラジオ放送などで、災害を身近に考えるヒントを出し続けてきた。

私生活ではマージャン、カラオケ、ボウリングなど多趣味で、「やりたいことがたくさん。遊ぶために仕事を一生懸命やっている」とにっこり。「不公平なことばかりの世の中だけど、唯一公平なのが時間。みんなに24時間しかない時間を、いかに有効に使うかは自分次第」と説く。

「失敗すれば恥ずかしい、負ければ悔しいと言っていたらあつという間に一生が終わる。『当たって砕けろ』で生きてきた」。こう振り返る工藤さん。近いうちに防災や減災、ボランティアの普及・実践を進める団体の再興に取り組みたいといい、「後期高齢者のくくりに入ったが、少なくとも80歳までは現役のつもり」と胸を張る。